

HDIM.NGO/0166/2018/JP

2018年9月13日

CESNUR（新宗教研究センター）

Via Confienza 19

10121 Torino, Italy

www.cesnur.org

cesnur_to@virgilio.it

中国における人権および宗教の自由を報じる日刊誌 *Bitter Winter* の出版社：

<https://BitterWinter.org>

OSCE（欧州安全保障協力機構）人権に関する会議 2018年9月13日木曜日
ワルシャワ

第6分科会：キリスト教徒、イスラム教徒、その他の宗教団体の信者を含む
宗教や信仰に基づく不寛容および差別との戦い、および、反ユダヤ主義との戦い

CESNUR 代表マッシモ・イントロヴィーニャ教授による声明

中国での宗教弾圧 - OSCE 加盟国への影響

2018年2月1日、新たな宗教事務条例が中国で施行された。法律の専門家の間では、この条例は政府が管理する5つの公式宗教団体に属さない宗教および教会を指す「灰色の市場」に対して新たな制限を課すものだとする意見が多数を占めている。また、この法律は公式の邪教（異端の教え）リストに掲載されている「黒い市場」の宗教団体を弾圧するための新たな手段をつくりだす。これらの団体は完全に禁止され、弾圧を受けている。邪教の一員として活動を行う行為は、中国刑法第300条で犯罪行為に指定されており、3年から7年「以上」の懲役刑が科される。

チベットと新疆には特別な規制が設けられているが、宗教に対する全面的な敵意により、新疆自治区のウイグル族とカザフ族のイスラム教徒、および、チベットの反体制派の仏教徒への弾圧が強まっている。学者たちは、「教育による改心」のための収容所（実際には強制収容所）には150万人が収監されており、そのうちの3分の2がウイグル族だと推測している。

OSCEの加盟国は中国と複数の側面から関係を有しており、二国間協議において、より断固とした姿勢で人権と宗教の自由の問題を取り上げてもらいたい。

また、OSCEの加盟国は、中国国内の状況の影響も受けている。なぜなら宗教を理由とした中国人の難民申請が増加しているためだ。ウイグル族が最も多く、とりわけ中央アジア諸国での申請が目立つ。さらに、邪教に指定された宗教団体の信者は、西欧と北米の国々で難民申請を行っている。

法輪功の学習者の難民申請者もいるが、最近では全能神教会の信者による難民申請が最も多い。全能神教会とは中国のキリスト教系新興宗教団体であり、1995年に邪教に指定され、政府の発表では中国国内に400万人の信者を抱えているという。全能神教会は1995年、もしくはそれ以前から弾圧を受けており、中国で30万人を超える信者が勾留されている。また、複数のNGO（非政府組織）が、複数件の拷問と裁判を経ない処刑を立証している。さらに、全能神教会は、絶えずフェイクニュースの被害に遭い、犯罪行為を非難されているが、欧米の学者の綿密な調査により、全能神教会がこれらの犯罪を行っていないことが証明された。

このようなフェイクニュース、難民に対する一般的な敵意、難民法の解釈に関する混乱により、米国を除くOSCEの加盟国への2,200件以上の全能神教会の信者による難民申請のうち、承認されたのは320件に過ぎない。

カナダとスウェーデンは、望ましい決断を下す確率が高く、称賛に値する。また、イタリアの当局は学者と協力し、全能神教会をはじめとする団体に関して、より正確な情報を得る取り組みを始めている。

しかし、その他の国々では、全能神教会、および、その他の弾圧を受けている宗教団体の難民希望者の多くは拒否され、一部においては中国に強制送還された直後に「姿を消す」事態が発生している。

全能神教会の信者を含む、宗教を理由とした中国人の難民申請に対して、OSCEの全加盟国に真摯かつ公正な検討を行うこと、また、投獄、拷問、さらには死亡を含む、難民希望者が中国で直面するリスクを真剣に評価せず、強制送還を行わないようにしてもらいたい。